

ソドロ」ト號シ前ノ二艦ハ同形同種コソテ各軍甲鎮

ノ厚サ吃水線ニテ二尺六寸大砲ハ百頭ノ「アームス

・ロンク」砲四門ト其小量ノモハ十八門ヲ蒙載シ

速力ハ十六「ノット」ナリ製造ノ物費用ハ各銀貨三百

八十三万四千圓ノ豫算ナリ又後ノ二艦モ同形同種ニ

シテ各其甲鎮ノ厚サ二尺二寸大砲ハ百頭ハ「アームス

・ストロング」砲四門速力ハ十五「ノット」製造ノ物費用

ハ各銀貨三百五十萬圓ナリ此四艦ハ彼ノ有名ナル英

艦「インフレキシブル」號佛艦「アミラル・チャーチ」號

ナモ共ニ後ヘニ時若タラシムモノニシテ目下實ニ

天下無双ノ怪物ナリト云フベキナリ我治政府ト同

齡ナル新伊太利國ノ海軍ノ進歩則ナ斯ノ如シ讀者ハ

黒シテ何ノ觀ナス歟

(以下次號)

雜報

○有栖川宮 同宮ニテ御歸朝後昨日初先て内閣へ御出頭相成りたりと

○栗本宮 同宮ニテ學習院へ入學相成るべくの御内沙汰もありし哉に聞しが今般陸海軍擴張の聖旨ヨ基き更に陸軍士官學校幼年校へ入學遊バシ

聞せらるゝ事にて右三縣も書類等取經りの計画中あるよし

○河村海軍卿 同卿ニハ愈今八日治水上の事に付利根川沿岸地方へ出張せらるゝヶ猶十葉、群馬、埼玉の三縣處へも立寄られ縣治民情の摸様をも親しく見聞せらるゝ事にて右三縣も書類等取經りの計画中あるよし

○武官兼任參議 武官兼任の參議ニハ目下特に多忙ある故當分の内土曜日半休暇を止められしといふ○今井陸軍少將 今井陸軍少將は當時海防局長の任を以て廣島鎮台管轄の地方巡回中の處る御用有之付送遼寧京すべく曾昨日電報を以て出張先へ達せられしと云ふ

○伊東宗光氏 伊東宗光氏もハ一昨六日令息を作ひ豆州熊本温泉に赴ひられたるよし

○各鐵台佐官 各鐵台參謀長及次官等は各鐵台佐官より合せらるシダ今度將官會議の開催を以て出船の事ハ多年來職務の兼て以て祭品料として金百十圓づゝを昨日大政官より下附されたり大佐を以て合せらるシダ今度將官會議の開催を以て自今大中佐の中より合せする事とせられ

○參事院 參事院よ於てハ客年以來諸條例の會議す

へき分り最早大々議決となり内閣へ差出されしも今

回陸海軍擴張又付該費額の儀又付諸稅則比較取調御

用の至て繁忙ある趣にて松方代理議長も目下は日々

午前八時より出頭し講席も着るゝといふ

○教導團長 教導團長ハ從來大佐迄勤め來られし

ダ今後少將改めらるゝ由

○非役將官及士官 今般陸軍省に於て當時非役將官及び士官の人員を取調らるシを聞くに谷中將、福原、

長屋兩少將を始先(歩兵科)少佐十一名、大尉十六名、

中尉十三名、少尉二名(騎兵科)大尉一名(砲兵科)少

佐一名、中尉一名、少尉五名(工兵科)大尉一名(砲兵科)少

名、軍醫五名、同副三名、同補一名、馬醫補一名合計七

士官なるよし

○陸軍大學校 先般陸軍參謀本部へ設立させし大學校の幹事ハ陸軍大佐岡本兵四郎君へ命ぜられし由

○費用決算 海軍省より目下朝鮮變亂に關する費用の調査中あるとしが近日日進天城二艦の歸着を待て其筋へ右の決算表を差出さるゝ由

○十四年度決算報告 大藏省にて來る廿八日を以て十四年度各廳經費金額支出収入の國庫閉鎖ふ付該

費決算報告書差回され度旨此程各省の會計主任官へ照會ありしと付名省の該委員ハ目下早出居残右決算取調ふて餘程繁務ありと

○手當改正 諸官省とも各車員は早出居残を爲す者

等までと定められ一等賞牌は金五十圓二等ハ同二十

圓二等ハ同五圓を添へて下賜さる四等ハ賞牌のみ五等以下ハ褒賞状のみを賜る筈ありと聞く

○水產博覽會 同會にて先頃より會議されし審查規則ハ十六箇條より決定ヤシ故不日農商務卿より夫々へ達せらるゝといふ又同會の優等賞牌は第一等より四等までと定められ一等賞牌は金五十圓二等ハ同二十圓二等ハ同五圓を添へて下賜さる四等ハ賞牌のみ五等以下ハ褒賞状のみを賜る筈ありと聞く

○獻金の協議 今般陸海軍擴張の聖勅より基た華族中ふでハ該費用の内へ夫々獻金をあさんと同族有志者ハ目下協議中なりといふ

○電氣燈 曾て其筋より歐洲へ往來されし電氣燈は

この程到着せしを以て取敢へず試験の爲め秋葉燈へ

五万燭火力のものを一基又比徳燈へ同く三万燭火力

ものと一基擇へ付けらる結果して其便益を見定めし

上にて各燈へも据へ付らるゝ筈ありと聞く

○軍艦被代 朝鮮朝鮮に保護艦とて派遣せる日

遣天城の二艦と比敵孟春の二艦と交代せしめらる

ふ船石二號の修護出來大第出港の都合ありといふ

○海岸測量圖 海軍省にて調査されし海岸測量圖を

此程英國陸海軍共會へ寄附されたるよし

○近衛騎兵 近衛騎兵は是まで一中隊あり迄ところ

今回更ニ二中隊に増加する趣にて目下東京鎮台及

放學團より入籍中の由

○電信隊 陸軍々用電信隊ハ目下只東京鎮台のみを

りしが今回他の五鎮台へも同隊を分置せらるゝ由

○伊東一等侍醫 先頃岩倉右府より病癒療養の爲め豆州熱海温泉へ赴むられ夫より當時ハ修善寺村にて入浴せらるゝが添あくも聖上には右府の病癒を深く御掛念遊をさし此程御手許より伊東一等侍醫を温泉先まで差遣はされ同君の診察おて専ら治療を施されたりといふ然るよ熱海修善寺其外とも近年浴客ハされし丹誠もゑう昨今は右府にも餘程快氣に赴むか

頗る雜沓あきども元來海岸の僻地なれば醫院み乏しく遇々よりても概ね敷醫のみよて往々病者を長穀

しすする事なるに我が伊東侍醫より右府の許を訪ひしを聞傳へて近村舉て打鳴び長病の床より臥したる古疾苦共に毎日旅館に來て切に診察を乞ひ又は自家

招じて何卒長病は父々煩悶を助け給へと諺よい

地獄ふて佛より逢ひしが如く陸續て診察を請ふ者ある

又付同君も迷惑ふい思はるをと醫ハ仁術とこそいへ

バ強ち謝絶も出來難き場合もありまた右府も折角

病者の請願を無氣に断へるも如何あれを成るべく

治療を施されよと傍らより勧説するゝ付同君小

は往復三週間の見込みにて往々猶二週間御暇

通顧をされ専ら治療をさるゝ付近村の者は殊の外

悦び居ると彼地より歸京せし八の話しお其儘記し

○故深澤勝興君 去る一日横濱十全病院にて死去し

一昨六日東京芝増上寺より葬儀を営むた深澤勝

興君の履歴を聞くに元と肥前大村藩士にて幼少より

藩主の近習役を勤め慶應年間より専ら國事ぶ奔走し

明治元年より大村藩の軍監として奥州東征の師に從

軍し同三年横濱正金銀行に取締役となり同銀行神

學し同八年に至て歸朝警視廳の准奏任御用掛を命ぜ

らる同十三年横濱正金銀行に取締役となり同銀行神

戸支店の支配人を兼ね同所在勤中同十五年十二月より病に罹り居たれども該銀行の緊要務お依り力えて

三十と謂ふして没したり又同君ハ明治生命保険會社

三千五百圓を保険するよしにして右金額は該會社より同君の遺族へ渡る等ありと云ふ

○區部長會議 明後十日東京府總理事堂に於て本